

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4791700018		
法人名	有限会社 介護センターかな		
事業所名	グループホーム 虹の家		
所在地	沖縄県国頭郡宜野座村字漢那1953番地1		
自己評価作成日	平成26年6月12日	評価結果市町村受理日	平成26年8月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=4791700018-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成26年 7月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・目くばり、気くばり、心くばりをモットーに、お一人おひとりに添ったケアを心がけています。 ・入居者様と職員が一緒になって、笑ったり、泣いたり、ありのままにいられるところです。 ・体操や歌を取り入れ、入居者様・職員の健康増進を図っています。 ・年2回、近隣・地域の方々が参加しての消防訓練を実施しています。 ・近隣の幼稚園・小学校との交流、中学校の職場体験、青年会エイサーや老人会訪問の受け入れなど地域との繋がりを大切にしています。 ・近隣幼稚園で登校時に挨拶、交通安全見守りを行っています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は、地域密着型サービスの理念の下、開設当初から地域との連携に取り組み、地域住民の運営推進委員としての参加や防災時の協力が得られる他、小中学校等との交流も継続している。また自治会活動や地域行事にも利用者と一緒に積極的に参加し、馴染みの人や地域との関係継続を支援すると共に昨年は、「地域交流まつり」を開催し地域住民が事業所を訪れ交流している。また行政や社協等と連携し、認知症に対する理解の普及啓蒙の役割を果たすと共に地域高齢者からの相談事にも応じ、行政に繋げる等、地域貢献に努めている。更に看護職員を配置し、訪問診療や訪問看護等、協力医療機関と連携し、利用者の日頃の健康管理に努めると共に重度化や終末期ケアに向けた支援体制を整備し、昨年末、初めて看取りが実施されている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

確定日：平成 26年8月19日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングの壁に貼り、日頃から目を通し、意識してサービスに活かせるようにしている。 勉強会やミーティングで読み合わせを行い、全職員で共通理解に努めている。	理念は、「地域高齢者や要介護者は、地域で支える」と謳い、今年4月に法人代表者により見直されている。管理者や職員は、理念に基づき3つの方針を作成し、いづれもフロアに掲示し共有すると共にミーティング等で確認し、「目配り、気配り、心配り」をモットーに日々のケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設時から近隣幼稚園の校門前での朝の挨拶運動、交通安全見守りを実施している。 毎年区の行事へ作品・写真・試食の出品をしており、当日は入居者様全員で見学に行っている。畑で収穫した季節の野菜の差し入れや花を持って来られる方々との交流がある。	自治会に加入し、地域活動に参加する他、住民からの相談事にも応じている。小学校の総合学習や中学校の職場体験等を受入れると共に幼稚園前での朝の挨拶運動は、開設時より継続されている。また、野菜等の差し入れや利用者の様子を見に住民が立ち寄り、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事に参加したり、ボランティアを受け入れて交流することで、認知症の方の理解についての啓蒙活動に繋げている。随時、地域の方々からの相談、訪問も受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見は、職員に申し送り、サービスに活かせるようにしている。 委員からの要望で介護サービスの勉強会を行ったり、お互いの情報交換の場となるように努めている。	会議は、利用者や家族、村福祉課や包括職員、社協や区長等多数の地域代表者が参加し、年6回開催している。会議では、写真資料で利用者の状況を伝えると共に事故や自己評価等を報告し、災害対策や看取りケア等への意見や地域の情報交換が行われ、運営に反映されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に行われる村内の地域密着型サービス事業所定例会に参加し、健康福祉課、包括支援センター、他事業所と現状報告、情報交換を行っている。地域の方からの相談がある場合には、包括支援センターと連携しながら対応している。	行政とは、村主催の地域密着型事業所定例会への参加や毎月窓口を訪ね、事業所の状況等を伝えている。行政の依頼を受け、地域における認知症の啓蒙啓発に認知症キャラバンメイトとしての参加や福祉課相談窓口を休日の緊急連絡場所として応ずる等、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ありのままに暮らすことが出来るよう、目くばり、気くばりを行っている。ペット柵に鈴をつけたりして、自由な暮らしを支えながら安全に生活できるよう努めている。	「身体拘束、その他行動防止に係る規範」を作成し、「禁止の対象となる行為」と共に掲示し周知している。玄関は施錠せず、自由な出入りや散歩に同行する等対応し、転倒予防としてベッド柵に鈴が使用されている。家族へのリスク説明は、入居時や状況変化に応じて行われている。	

沖縄県(グループホーム 虹の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から、言葉のかけ方、話し方、関わり方など職員間で確認し合いながら虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で権利擁護について学んでいる。今年度は、宜野座村、村社会福祉協議会の協力のもと学ぶ機会を設ける。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、疑問がないか確認している。日頃からコミュニケーションを図り、気になることがあればいつでも聞きやすいような環境作りに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「要望や気づいた点があったらお聞かせください」と伝え、その都度、対処するよう努めている。介護相談員の訪問を受け入れている。玄関に意見箱を設置している。	利用者の意見は、日々のケアの中で聞いたり介護相談員を受入れ、「肉が食べたい」や「パーマしたい」等把握し、食事や外出支援に繋げている。家族からは、面会時や交流会等で聞いている。家族から「花があるといいね」の声に花や野菜を植栽し環境整備に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から、対話を大切にし多くの意見が聞けるように努めている。 職員の交換ノートを作り、活用している。 ミーティングや代表者との個人面談を行っている。	職員意見は、日常の業務やミーティング、交換ノートの活用の他、年2回法人代表との個別面談等で聞いている。職員からの提案で、日よけの設置やポータブルの衛生管理方法の見直し、業務の効率化に向けて調味料の一括購入等、改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績は、その都度激励している。各種手当を支給している。 子育てをしながら仕事ができるよう勤務体制にも配慮し、調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じて、研修に派遣している。 研修後は、報告書を作成してもらい、報告会で全職員で情報共有し、質の向上につなげている。資格取得ができるよう勤務調整を行っている。		

沖縄県(グループホーム 虹の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県グループホーム連絡会、村内地域密着型サービス事業所定例会、山原南ケアマネ定例会を通してネットワーク作りをしている。各種研修会に参加し、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	焦らず、ゆっくりと話を聴き、ご本人と向き合う時間を多く持つようになっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所時や要望があれば自宅へ出向いて、話を聴いている。機会があるごとに話を聴き、信頼関係が築けるよう努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いを行い、必要としていることを捉えるよう努めている。必要な場合は、他のサービス、医療関係者との連携で、支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜のつくろい、洗濯物干し・たたみ、掃除など一緒にいき、おかずの味付けの仕方、漬物の作り方などを教えて頂いている。 入居者様から、朝は「今日もよろしくね」、帰りは「ゆっくり休みなさい。また明日ね」などのお言葉がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に日頃の様子を伝え、入居以前の様子やご家族が行っていた工夫などを教えて頂いている。ご家族のオープンガーデンに招かれ見学に行った。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの暮らしぶりを把握し、馴染みの美容室、商店の継続利用、希望があれば親戚、友人の自宅訪問を行ったり、来訪があったりする。	利用者の地域社会との関係性は、本人や家族、地域の方などから把握している。利用者は、出身地域の行事参加や信仰や神事、畑の手入れ等で自宅へ外出し、近隣住民や親戚、友人等と交流している。また知人等の訪問を歓迎し、馴染みの美容室や商店の利用等、関係継続を支援している。	

沖縄県(グループホーム 虹の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	耳が遠い方が多いので、お互いの言葉を伝え、誤解や不快な思いが無いよう仲立ちをし、会話を楽しくめるように心がけている。洗濯物干し・たたみ、野菜のつくろいなどを行いながら、やり方をお互いに確認する場面もある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に「いつでも連絡をください」と伝えている。差し入れを持って来所されるご家族もおり、電話での相談を受けることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お茶タイムを過ごしたり、外気浴を行いながら話を聴いたり日々の関わりや会話の中から思いを汲み取れるよう努めている。 ご家族から情報を聴くことで、どのような生活をされたいのか把握するようにしている。	利用者の思いは、入浴や昼寝等、ゆったりとした時に会話をしながら「家族に来てほしい」や「畑の草取りがしたい」等把握している。意思表示が困難な利用者には、家族の情報や利用者の言動や行動等から職員間で話し合い、時には代弁する等、本人を主体とした支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、親戚、友人などから話を聴き、把握するようにしている。在宅でサービスを受けていた方は、ケアマネさんから情報を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムを把握し、バイタルチェックや心身状態の観察を行い、全体像を捉えていく・ご本人の希望を取り入れ、一緒にどう過ごすかを考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りや日誌で情報共有し、都度話し合いを行っている。ご家族と面会時や電話で話をし、日頃の様子を確認しながら作成している。	介護計画は、地域との関わりや本人のできる事、やりたい事等、利用者や家族の意向を確認し職員意見も踏まえ作成している。計画に基づいて利用者個々の日課表を作成し、実施、記録、3ヵ月毎のモニタリングが行われている。1年毎の定期見直しや状態変化に応じて随時に見直されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、日誌に記録し、情報を共有しながら全職員で実践に活かしている。その中から発見があったり、工夫をしたり、展開につなげている。		

沖縄県(グループホーム 虹の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況、状況により、ドライブ、地域巡りなどの外出支援やボランティアの受け入れなどを行っている。親戚や友人のご協力を得ながら支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自宅訪問、親戚、友人宅訪問、行きつけの美容室利用、幼稚園児・小学生との交流、公民館訪問などを行い、地域と連携し支援するよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族とかかりつけ病院を受診される方やこれまでのかかりつけ医の訪問診療を受けている方がいる。職員が送迎を行い、ご家族と落ち合ったり、受診に立ち会う場合もある。受診時は、主治医に必要な情報を提供したり、情報を頂いたり、いつでも相談できる関係にある。	入居前からのかかりつけ医が協力医となっている。病院受診は、他科も含め家族対応としているが、必要時は送迎や同行等支援している。訪問診療による定期受診や訪問歯科、訪問看護には、看護職員が対応し情報交換している。健康チェックや医療ケアは看護管理記録に整備されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の変化を報告し、病院受診につなげたり、指示を仰ぎ、実施することもある。管理者は、ご家族に連絡、状況報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報提供をしたり、医療機関から情報を頂いたり、主治医、看護師と連絡を取りながら、相談できる関係を保っている。入院中もご家族と連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを希望されるご家族、主治医、看護師、看護職、介護職との話し合いを行い、主となるご家族だけではなく他のご家族も含め全員で看取りについて話し合うよう支援している。事業所として、出来る事を確認し、共有している。ご本人の希望がある場合は、日々の関わりの中で話を伺っている。	重度化や終末期に向けての指針は作成されていないが、看取りマニュアルや同意書を整備し、契約時や定期的に家族へ説明し意思確認している。医療機関との連携も図られ、看取りに関する看護、介護職員の勉強会を開催し、支援体制を整備し、昨年末は、初めて看取りが実施されている。	事業所としての指針を示すことで家族への説明や理解に繋がられ、共有する上でも明文化が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職が実践して見せたり、指導したりしている。応急手当を身に付け、活かせるよう定期的に研修に参加していく。		

沖縄県(グループホーム 虹の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、近隣住民、地域の方々にも協力をしていたり、総合訓練を年2回行っている。訓練の後は、アドバイスを受けた点を全職員で確認し、いざという時に活かせるよう努めている。	年2回消防署立ち会いの下、地域住民も参加し通報、消火、避難訓練を実施している。災害発生時の地域住民との連絡網や非常用持ち出しの書類、飲食品や生活用品の備蓄も整備している。火災、地震、緊急時対応マニュアルは整備しているが台風や水害については確認出来なかった。	あらゆる災害発生に備えた各種マニュアルの整備やマニュアルの定期的な見直しが見られる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士で言動や対応をアドバイスし合い、人生の先輩という尊敬の気持ちを忘れずに接するよう努めている。特に排泄、入浴時は同性介助を基本にし、異性が行わなければならない時には、ご本人に確認をしてから行っている。	利用者の尊厳やケアの心得を掲げた「職員倫理綱領」を掲示し、職員の意識向上に繋げている。職員の言葉遣いが気になる時は、職員間で注意している。日課は、本人が望むことを把握し支援するよう努めている。排泄や入浴介助時は、体をタオルで保護する等、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆったりした気持ちで接し、希望に添えるよう話しやすい環境に努めている。言葉で十分に意思表示をすることが難しい方に対しては、仕草や表情から思いや希望を汲み取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の心身の状態に合わせて、どう過ごされたいのか確認しながら、ありのままの過ごし方を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みやこだわりを把握し、馴染みの美容室を継続利用している。着たい服を一緒に選んだり、整髪が出来るよう鏡やブラシを準備し、声をかけたり、ご自分で化粧をされる方に声をかけ支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に調理をしながら、調理方法を教えて頂いたり、野菜のつくろいをしながら、野菜の作り方の話をしたり、盛り付け、食器片付けなどを一緒に行っている。	食事は、利用者の要望を取り入れながら3食事業所で調理している。利用者は、職員と一緒に食材の買い物、下ごしらえ、調理、盛り付け等に参加している。利用者の状況に応じて居室、カウンター、テーブルでの食事を支援している。職員は弁当を持参し、利用者と一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、形態、器など、食べやすいように配慮している。摂取量、排泄、体重を記録し、確認しながら食生活全体の支援を行っている。好みの飲み物(コーヒー、生姜湯、黒糖湯、牛乳など)も提供している。		

沖縄県(グループホーム 虹の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には、口腔ケアの声かけ誘導や介助を行っている。希望される方は、月に1~2回、訪問歯科医による口腔内のチェック、口腔内の清潔保持の指導を受け実践している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表で状態やパターンを把握しながら、声かけ、トイレ誘導を行っている。夜間紙パンツを使用している方も、日中は出来るだけ布パンツで対応し、定期的にトイレ誘導を行っている。	排泄パターンを把握し、夜間は、リハビリパンツやポータブル使用の利用者も適時声かけし、日中は、布パンツやパットを併用し、トイレでの排泄を支援している。月末の集計でパット等使用量の多い時は職員間で要因を検討し、早めのトイレ誘導を行う等、工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には食物繊維の多い食材をよく使っている。牛乳やヨーグルトも日常的に取り入れている。体操や散歩など便秘予防に取り組んでいる。薬を使用するときは、主治医、看護職と相談し、使用量、頻度を調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を月・水・金と決めているが、汗や排泄で汚れた時や希望される方はいつでも入浴が出来るよう支援している。同性介助を基本としている。入浴日を決めることで、日付や曜日の意識付けになっている。	入浴は週3回、午前の支援と決めているが、利用者の希望や状況に合わせて柔軟に対応している。拒否がある場合は、時間や曜日を変更したり清拭剤を使い清潔保持している。好みの石鹸やシャンプー等を持参する利用者もいる。二人介助時は異性職員は背部を支援し羞恥心に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく眠れるよう寝具、室温、照明にも配慮している。日中の活動を多くしたり、ご本人の状態によって添い寝をしたり、ゆっくり休んでいただけるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が管理し、服用時は状態に応じて、見守り、介助を行っている。薬の作用等を把握する為、処方箋をファイルして確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の得意な方から味付けや調理方法の手ほどきを受けたり、プランターで野菜の栽培をしたりしている。希望に応じて、ドライブや買い物、美容室利用など外出支援を行っている。出身区の豊年祭のビデオ鑑賞や三味線の演奏、踊り、歌など楽しめるよう努めている。		

沖縄県(グループホーム 虹の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族等と協力してご本人の希望に添って外出できるように努めている。自宅に行ったり、区の行事に参加したり、近隣地域の桜や梅の花見に出かけている。	毎朝、幼稚園前での挨拶運動や庭にマットを敷いて寝ころび、外気浴等楽しんでいる。またドライブで初詣や花見等へ出かけたり小学校のマラソン大会の応援や地域行事に参加し、五感刺激の機会となっている。家族の協力を得て、馴染みの美容室や商店利用、自宅への外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理できる方、管理したい方に対して、ご家族と相談しながら支援している。職員間でいくら所持しているかを把握し、外出時の支払いをご本人が出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、いつでも使用出来ることを伝えており、ご自分で出来る方はご自分で行ったり、職員が仲立ちをする場合もある。手紙のやり取りが出来るよう書く作業や送る支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しが強い時には、レースのカーテンを使用し、西側の窓の外には、西日をやわらげる日除けを設置している。室内には、ご家族からの季節の花や摘んできた花を飾ることもある。	居間は、活動写真や作品、季節の飾りが施され、台所に面し、料理の音や匂いを感じ家庭的な環境となっている。ダイニングは、庭へと繋がりがり外気浴が出来、思い思いに過ごせるようソファも配置されている。玄関や庭では、利用者が花や野菜を育て楽しめるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先で日光浴や外気浴をしながら会話を楽しんだり、2人掛けのソファに座り、民謡を唄ったり、うたた寝をする方もいらっしゃる。お茶・お菓子を準備し、ゆったり出来るよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にご家族の写真や孫、ひ孫からのプレゼントを飾り、いつでも家族との繋がりが感じられるよう配慮している。自宅で使用していた家具類、寝具類をそのまま使用していただいている。	居室のカーテンは二重で、光やプライバシーに配慮されている。各居室には日課表と写真入りの手作りカレンダーがあり、行事や家族の来所予定等が記載されている。寝具や時計、手鏡等が持ち込まれ、花や家族写真、活動写真、作品等を飾り、その人らしい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレに手すりを設置し、危険がない範囲で、出来ることをご自分で行えるよう見守りを行っている。居室前に名前入りの写真を飾り、ご自分で確認出来るようにしている。		